

アマモ場再生でカキをブランド化 日生の「里海」づくりプロジェクト



自：自然共生
資：資源循環
低：低炭素

キーワード

地方創生、官民連携、
水辺の保全・再生、ブランド化

フィールド

中国地方
(岡山県) ・ **海**

実施体制

日生町漁業協同組合、日生中学校、
岡山県水産課・水産試験場、備前市



アクションの目的

アマモ場の再生による水産資源の安定確保

アクションの背景

1945年頃から1985年にかけて、生活排水や護岸工事の影響で、日生町の沿岸部、島嶼部でアマモ場が約600haから約12haまで減少した。その頃の深刻な漁獲不振の原因がアマモ場の減少にあると考えた当時の組合長の指揮のもとで、1985年、アマモ場再生に向けた取組を始めた。

アクションの内容

【日生かき等の水産資源の安定確保に向けたアマモ場の再生】

毎年アマモの繁殖期に花枝を採取、保管して、10月頃に種を選別してまいている。再生されたアマモ場では魚の餌となる甲殻類が生息するほか、稚魚の隠れ家や魚介類の産卵場となり、漁業にとって重要な場所となっている。

アクションのポイント

◎もともとアマモ場は船のスクリューに絡むため漁の妨げになると考えられていたところ、その減少が漁獲不振の原因であるとの考えから、漁師19名で活動を開始した。長期にわたる取組が必要なプロジェクトであるが、途中あきらめずに、30年以上にわたって継続的に取組を実施し、現在では大きな感動を呼んでいる。

アクションの効果と今後の展開

- アマモ場の面積が250ha以上にまで回復している。これと並行して、アマモ場の衰退とともに見られなくなっていたクマエビやモエビなどの水揚げが、目に見えて増えてきている。
- 地元の日生中学校では毎年アマモの種まき体験の活動に取り組んでいる。2016年に市が事務局の中心となって全国アマモサミットが開催されたが、こうした取組の様子が全国の人々に紹介されることで、子どもたちが地域に誇りを持つきっかけにつながっている。
- 活動が評価されるようになり、テレビで放映され知名度が向上したことなどを受けて、活動への参加者の増加につながっている。

日生町漁業協同組合 (日生藻場造成推進協議会) 〒 701 - 3204 岡山県備前市日生町日生801番地4

○ TEL / 0869-72-1181 ○ FAX / 0869-72-2028 ○ E-Mail / hinasegy@beach.ocn.ne.jp

○ web / <http://www.hinase.net/>